

# 新潟探究新聞

発行元

新潟青陵大学  
現代社会とメディア  
編集：H

## 野菜・果物で個性発揮

### 江南区 五つのキャラクターでPR



江南区では、区ビジョン「まちづくり計画」にて、創造的な産業の育成として農業の振興を目標として掲げている。農産物の直付所、農家レストラン、農業体験など生産者と消費者が触れ合える場づくりを検討を進めている。

そんな中、農産物をPRするために地区ごとにキャラクターが存在する。それ

それぞれ、藤五郎梅の梅五郎じい、十全さんの十全さん、スイートクーンのスイートくん、新高の高ナシ係長、越後姫の姫ちゃんの5つのキャラクターだ。食と花の銘産品にはなすをはじめ、様々な野菜・フルーツが指定項目として掲げている。

今回は、キャラクターにもなっている江南区の有名な野菜と果物について二点取り上げる。

二点目は、どうもこうしだ。どうもこうしは豊富な日照量を利用して早くから出荷される砂丘地・平坦地、昼と夜の気温差によりさらにおいしさを増す標準冷地と六月中旬から九月ま

アザレアとボケは秋葉区

## 花と緑の町 秋葉区 アザレアとボケ



アザレア

アザレアは、新潟市が日本一の生産量を誇る鉢花。アジア原産のツツジがヨーロッパで品種改良されたもので、別名「西洋ツツジ」とも言われている。八重咲きのものが多く、色はピンク、赤など種類は豊富だ。

盛んで、その歴史は江戸時代から続いている。本来の開花時期は四月、五月であるが、開花調整により秋から冬の室内を彩る鉢花として親しまれている。

ボケは、多彩な花色があり、非常に多くの品種が存在している。秋葉区小須戸など約4800本が植えられている。さらに、2019年には日本ボケ展と題し

中央区のビジョン「まちづくり計画」では、外国人来訪者に向けての魅力を伝えるために機能を充実させることも、都市機能として

交通基盤の強化など目標として掲げている。中央区は新潟市の中でも中心地に位置することから施設も多く、様々なイベントや活動

「石油文化遺産」を巡ることで「つららこすだ」にてたくさん展示されている。秋葉区は、植物に関する施設は多数ある。新潟県立植物園では、春夏秋冬に合わせて様々な花を見物することができる。この冬もツバキ属の園芸品種などが園内には咲いている。園地については無料で見物できることから気軽に植物を楽しめる工夫がある。また、「

私の最終目標は、各地区の魅力について、共通点と相違点を知り、新潟市のま

今回中央区、江南区、秋葉区を中心に地区の魅力について紹介してきた。私がこの3つの区を取り上げようとしたのは、中央区は大学が設置している区であったこと、友達と遊びに行くために利用していたこと。江南区は、当時実習していた場所であること。この地域について知ることができたこと。秋葉区は私の地元から一番近い地区で日々お世話になっていたからである。

ちづくりを見つめ直すことである。その結果、やはり各区によって特色があり、区の魅力がそれぞれに異なっていること、そして、各区はその特色や個性を生かして、新潟市の活性化に力を入れていることが分かった。それぞれ魅力は異なるが、その持ち味を合わせることが、新潟市は活性化し、発展できるのだと実感した。そして今後、さらに新潟市をより活気に魅力あるものにするためには、各区の魅力を継承することも非常に大切である。

## 編集後記（自説）



## 盛り上げの要 中央区

が行われている。今回はその施設とイベントを二つずつ紹介する。

施設としては「朱鷺メッセ」が有名だ。この建物は新潟万代島にあり、コンベンションセンターの機能を果たす。展示ホール、メイホール、国際会議室、各会議室（中会議室、小会議室）など複数の場所に分けられており、時にアーティストによるライブ演奏に利用されるなど幅広い用途で利用されている。さらに、施設内には日本海や越後平野を一望できる展望室、美術館、ホテルが併設されており、館内でも一日中楽しめる。展示ホール、メイホールでは、「新潟まつり」を始め「水上みこし渡御」、「市民みこし」などのみこしの行列、日曜日に「住吉行列」が引き続く行われ、クライマックスには「花火大会」が行われるなど盛りだくさんである。特に「花火大会」はメッセに取上げられるほど大変にぎわう催しの一つである。近年は、新型コロナウィルスの影響で中止をしたこともあったが、2022年は十一月に「花火ショー」という形で行われ、信濃川を舞台に音楽と花火が華やかに共演した。